|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 分野名 | ビジネス情報分野（ソフトウェア活用） | |
| 教科書 | ソフトウェア活用（実教出版） | |
| 単　元 | 章 | 第１章　企業活動とソフトウェアの活用 |
| 節 | ２節　ビジネスにおけるソフトウェアの進化 |
| 教材の  タイトル | ＳＤＧｓとSociety5.0の理解 | |
| 教材からの学び | １　ＳＤＧｓについての理解を深めることができる。  ２　Society5.0に関する知識を広げることができる。  ３　社会問題に対して科学的な根拠に基づいて考えることができる。  ４　グループワークを通じて協働的に取り組むことができる。 | |
| 時間数 | ２時間 | |
| 授業の  進め方 | ＜ＳＤＧｓとSociety5.0の理解＞  １　ワークシートを配付し、ＳＤＧｓについて確認させる。（10分）  　　（第１章を学び終えてからの実施を想定、Society5.0については学習済み）  ２　各課題の説明を行い、生徒をグループ分けする。課題をグループに割り当て、グループによる課題解決のためのソフトウェアを考案する。また、考えたソフトウェアについてプレゼンテーションできるようにまとめる。（40分）  　　注１：実際のデータを活用することが重要（科学的な根拠に基づいて思考させる）。  注２：付箋などを使用して、ホワイトボードや模造紙などにアイデア出しを行い、考えをまとめていく。  ３　発表の順番を決定し、発表のための準備やリハーサルを行う。（５～10分）  　　（順番に前で発表していく形式）  ４　各グループ５分程度を目安に発表を行う。発表後は他のグループからの質問や教員からのフィードバックを受ける。（35分）  ５　発表内容を全体で振り返り、各課題の解決策がＳＤＧｓにどのように貢献するかを再確認する。また、先生からの講評を受け、ワークシートをまとめる。（５～10分） | |

ＳＤＧｓとSociety5.0の理解　授業計画

■本単元の位置付け

第１章　企業活動とソフトウェアの活用

２節　ビジネスにおけるソフトウェアの進化

■本単元の目標

１時間目

ＳＤＧｓとSociety5.0の理解を深める。

科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。

２時間目

発表する側としては、プレゼンテーション能力の向上を目指し、多彩な表現力を身に付ける。

ソフトウェアの活用について主体的に学び続ける態度を養う。

■評価の規準

【Ａ】知識・技術

・ソフトウェアの活用に関する知識を身に付けている。

・企業活動を取り巻く環境についての理解を深め、関連する技術を身に付けている。

【Ｂ】思考・判断・表現

・企業活動の改善と関連付けてソフトウェアの活用方法を見いだすことができる。

・企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見することができる。

・データや資料を用いて科学的な根拠に基づいて自身の考えを説明できる。

【Ｃ】主体的に学習に取り組む態度】

　・課題に対して、科学的な根拠に基づいてより良く解決しようとしている。

・グループ活動における自身の役割を認識し、課題解決に向けて積極的に取り組んでいる。

・実務に即して体系的・系統的に理解しようとしている。

■留意事項

　・日々更新される情報技術の進歩について留意が必要。生徒のアイデアにも柔軟に対応できるように教員自身が幅広い知識を有しておくこと。

　・科学的な根拠に基づいて考えさせるため、資料の適切な活用をグループへ適宜指導すること。

**ＳＤＧｓとSociety5.0の理解**

目　標：ＳＤＧｓとSociety5.0の理解を深め、科学的な根拠に基づいて考えることができる。

　　　　プレゼンテーション能力の向上と、協働的に取り組む態度を養うことができる。

〇　ＳＤＧｓについて

2030年までに達成すべき具体的な目標のこと。

「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals）」

ＳＤＧｓに関するメモ

〇　グループワークによる課題解決

実際の社会問題に対して具体的な解決策をグループで考えていきましょう。参考になるデータの一例を資料として紹介しています。課題解決に向けて資料を活用しましょう。また、各課題における既存のソフトウェアについての事例を調べてみることでアイデアのヒントになるでしょう。

課題１　地域の農業問題

　〇〇市では高齢化が進み、農業従事者の数が減少しています。一方で、若い世代の農業離れも深刻であり、地域の特産品が生産されなくなる恐れがあります。そこで、Society5.0の技術を活用して、この課題を解決しましょう。

(1) 農業問題の原因を特定し、解決するためのソフトウェアを提案しよう。

(2) 提案したソフトウェアがどのようにＳＤＧｓの目標（例：目標２「飢餓をゼロに」、目標８「働きがいも経済成長も」）に貢献するか説明しよう。

参考資料：地域経済分析システム（ＲＥＳＡＳ：リーサス）

「産業構造マップ」＞「農業」＞「農業の構造」、「農業産出額」、「農地分析」、「農業者分析」

＞「市区町村単位で表示する」＞　愛知県　〇〇市町＞　各グラフ等データ

課題２　スマートシティと持続可能なエネルギー管理

　〇〇市では2030年までに持続可能な都市を実現するために、スマートシティプロジェクトを開始しました。しかし、全国的にはエネルギー消費の増加に伴い、持続可能なエネルギー管理が急務な状況です。そこで、Society5.0の技術を活用して、この課題を解決しましょう。

(1) 地域の課題を特定し、解決するためのソフトウェアを提案しよう。

(2) 提案したソフトウェアがどのようにＳＤＧｓの目標（例：目標７「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、目標11「住み続けられるまちづくりを」）に貢献するか説明しよう。

参考資料：環境省Ｗｅｂサイト

自治体排出量カルテ　　各団体ダウンロード＞　愛知県　〇〇市町村

課題３　観光業と環境保全の両立

　観光業を盛り上げようとしている〇〇市では、観光客の増加に伴い、環境への負荷が増大しています。地域の自然環境を保全しつつ、観光業を持続可能な形で発展させたいと考えています。そこで、Society 5.0の技術を活用して、この課題を解決しましょう。

(1) 観光業と環境保全の両立を実現するためのソフトウェアを提案しよう。

(2) 提案したソフトウェアがどのようにＳＤＧｓの目標（例：目標11「住み続けられるまちづくりを」、目標13「気候変動に具体的な対策を」）に貢献するか説明しよう。

参考資料：愛知県公式Ｗｅｂサイト

ホーム＞　組織からさがす＞　公園緑地課＞　愛知県及び県内市町村の景観施策・景観規制

の概要＞　景観行政団体一覧＞　〇〇市

課題４　高齢者の健康管理と地域コミュニティの活性化

　高齢化が進む〇〇市では、健康管理と社会的孤立の問題が深刻化していきます。高齢者の健康を支え、地域コミュニティの活性化を目指していきたい状況です。そこで、Society5.0の技術を活用して、この課題を解決しましょう。

(1) 高齢者の健康管理と社会的孤立の問題を解決するためのソフトウェアを提案しよう。

(2) 提案したソフトウェアがどのようにＳＤＧｓの目標（例：目標３「すべての人に健康と福祉を」、目標10「人や国の不平等をなくそう」）に貢献するか説明しよう。

参考資料：国立社会保障・人口問題研究所ウェブページ

　ホーム＞　社会保障・人口問題基本調査＞　生活と支え合いに関する調査＞　調査報告書

〇　データから気付いたこと、考えたことなど（既存の事例も含む）

　　　年　　　組　　　番　氏名